令和2年度　練馬区立石神井西小学校

学校経営方針

校 長　山口 義一

1．学校教育目標

〇たのしく学ぶ子　　〇はつらつと活動する子　　〇ともに歩む子

2．目指す学校像（ビジョン）

「笑顔あふれる学校」 ～感動の共有～

（1）「わかるようになった」「できるようになった」喜びにあふれる学校
（2）体も心も鍛え、生き生きとした元気あふれる学校
（3）人とのかかわりを大切にし、仲良く助け合う優しさあふれる学校
（4）家庭及び地域社会に信頼される開かれた学校

3．具体的方策

（1）「わかるようになった」「できるようになった」喜びにあふれる学校

① 授業力の向上

・子供のポケットに何を入れたいのか（本時のねらい）はっきりさせる。授業の終わりに子供に「今日の授業でどんなことがわかったの？」と聞いたときにどのように言ってほしいのか子供の言葉で表現してみる。
・それをできるだけ児童自らの力で獲得させるにはどうしたらよいか考える。
→知識や技能を教え込むのではなく、児童に考えさせ、考えたことを書かせたり発表させたりして、お互いの考えを比較検討し、課題についてまとめさせる。（思考力・判断力・表現力の育成）
→「主体的・対話的で深い学び」の実現
・あまり欲張らない。5 分くらい早めに終わるように計画する。
・学年等でよい授業づくりのための情報交換をする。
・お互いに授業を見あう、見せ合う。→若手教員に積極的に指導する。（OJTの実施）
・外部の研究会に積極的に参加し、よい情報を伝える。→自分の専門教科をもつ。

② 望ましい学習習慣を身に付けさせる。

・正しい姿勢、鉛筆の持ち方、下敷きを敷く等継続指導。
・指名されたら「はい！」と返事、立って発言。→よい返事、発言の仕方等はその場でほめる。
・発言は、みんなの方を向いて一番遠くの人に聞こえるように言わせる。→先生にだけ言うのではない。
・「話し上手」を育てるには、まず「聴き上手」を育てる。
→①静かに聴く　②相手を見て聴く ③わかったらうなずきながら聴く
・机の上の整理、ノートにどのように書くか等、具体的に指導する。
・書く量を調整する。

③　形成的評価を生かし、指導の改善を行う。

・単元の途中で、一人一人の学習状況を記録する。→座席表、名簿等の活用

・誰がどのようなつまずきをしているか早期に発見し、次時の指導に生かす。

・評価の目的は、意欲の向上と指導の改善。

・「ここまで出来ているよ。」（肯定的評価）「こうすればできるよ。」こまめな声かけをして意欲を向上させる。

・自力解決の時間をうまく取り入れ、そこで個別（小集団）指導を行い、できるだけ早く支援する。

・単元末などの習熟の時間などは、個に応じた課題を用意するなど習熟度に応じた指導をする。答え合わせの時間より、つまずきをなくしていく時間にする。（先生に〇をつけてもらうために行列を作っているのはもったいない。）

④　生活科・総合的な学習の時間の指導の充実

・問題解決的な活動が発展的に繰り返される探求的な学習になるようにする。

・指導者が、何を身に付けさせたいのか、どのように身に付けさせるのか等、学びのストーリーを描いておく。（スパイラル指導計画の作成）

・年間指導計画を立て、計画的に指導する。

・他者と協同して課題を解決する協同的な学習及び体験活動を重視すると共に、思考力・判断力・表現力を育む言語活動の充実を図る。

・学校や地域の人・もの・ことを活かすことを授業改善の視点とする。

⑤　「書くこと」の指導の充実

・書くことの抵抗感をなくすための活動を工夫する。（短作文、週末日記など）

・書くことの種を見付ける指導を工夫する。（取材メモ、構成表）

・教師自身も書いてみて、書き方の指導の手立てを考える。（モデル文の作成）

・児童が「書いてよかった。」という達成感、満足感をもてるよう指導を工夫する。（相手意識、目的意識を明確にする）

⑥　外国語活動の充実

・今までの実践を活かしながら、外国語を使って積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度と能力の素地を養う。

・教師自らもたのしく学びながらスモールステップでトライしていく。

・インプットを色々な形でたくさんさせ、英語が苦手な児童が安心してアウトプットできるようにする。

⑦　プログラミング教育の実践

・プログラミング教育の年間計画に基づいて、まずは実践してみる。

・プログラミング的思考を育成する観点から、教科・領域等の指導で実践できることがあれば取り入れていく。

・ICT 支援員を活用した研修の場を設ける。

⑧　読書活動の推進

・読書指導の年間指導計画を作成し、それに基づいた指導を行う。

・読む力は心を育てると同時に、すべての学力の基礎であり、調べ学習の土台になる。

・月に1回は学校図書館、を活用した授業を行う。

・読書活動の推進のための人的、物的資源を積極的に活用する。

学校図書館支援員、関町図書館、図書館ボランティア
団体貸し出し：最大 300 冊、最長 3 ヶ月、調べ学習に使う資料
図書館見学：館内の案内、説明
調べ学習の支援：来館した児童に資料が閲覧できるように工夫
学校訪問：本の紹介、ブックトーク、本の探検ラリー、図書館の利用案内など

・発達段階に応じた方法で読書記録を書くことで、自分の読書歴を振り返り意欲を向上させる。
・各学年の課題図書を活用し、読書の幅を広げる。
・学校図書館活用のルールの共通理解と指導の徹底

⑨ 家庭学習を充実させる。

・望ましい学習習慣について学校と家庭で共通理解を図る。
→たより、HP等での情報発信
・宿題の量、内容、頻度、方法などについて学年で共通理解する。
→保護者は学級によってあまりにも差があると不安になる。基本の形はそろえておく。
・漢字練習、計算練習などは、継続的に練習させる。→計算は、答え合わせ、間違いなおしまで。

⑩ その他

・地域未来塾（第2土曜の午後に行う学習支援）の実施
3年生以上の児童を対象に、学習習慣や自分で学ぶ力を身に付けさせる。（学校・地域連携事業の活用）
・担任からも、参加を呼びかけてほしい。
・漢字検定の準会場の実施
希望者を対象に、8月に本校を会場にして漢字検定を実施する。
漢字の読み書き、語彙力などの向上が期待できる。

（2）人とのかかわりを大切にし、仲良く助け合う優しさあふれる学校

① 自尊感情を高める。

・どの児童も学級、学年、学校の大切なメンバーであると、教師自身が受け止め、発信し続ける。
・「できないことを叱って終わるのではなく、できるようにしてほめて終わる。」指導を実践する。
・「問題のない学級がよい学級ではなく、問題を解決できる学級がよい学級である。」という認識に立ち、問題を改善のチャンスと受け止め、「このクラスならきっと解決できる。」というメッセージを発信し続ける。（心の温度を温かく）

② 特別支援教育の充実

・児童の実態を把握し、個別の指導計画、個別の教育支援計画を作成し、教職員、保護者、関係機関等と連携した支援ができるようにする。
・特別支援校内委員会の時間を確保し、特別な配慮を要する児童の理解と支援のあり方を組織として考え、全教職員が共通理解できるようにする。
・特別支援教育について理解を深める。（研修参加、図書資料活用）

③ 友達とかかわる楽しい活動を実施する。

・学級活動の充実を図る。
→学級活動の時間は、週1時間ある児童が自由に使える時間である。（一定の制限はあるが）

この時間を使って、楽しい活動をたくさん経験させたい。
学級活動（1）（話合いと集会、係活動）及び学級活動（2）（3）を計画的に見通しをもって行うことが大切。
・特別活動における実践的な活動の中で、道徳性の育成を図ることができる。
・積極的に発言している人や司会進行をがんばっている人だけでなく、発言している人の方を向いて一生懸命聞きながら考えている人、困っている人や弱い人を助けている人、自分のことよりみんなのことを考えて行動している人など見つけて具体的にほめる。
・話合いや集会の後は、必ず「先生のお話」の時間を作り具体的に評価する。
・週に1回くらいみんなで遊ぶ日を作り、集団で遊ぶようにするとよい。
→教師も一緒に遊んだり、その場の様子を見ながら一緒に楽しむとよい。

④ さわやかな挨拶の実行
・「挨拶をしなさい。」ではなく、こちらから「おはよう！」と明るく挨拶することを続ける。
・教員がよいモデルを示す。保護者や地域の来校者等に積極的に挨拶をする。
・「自分から」「顔を見て」「元気な声」「笑顔で」など、よい挨拶とはどういうものが具体的に示す。
・さわやかな挨拶には、「挨拶された人も」「挨拶した人も」「周りで見ていた人も」幸せな気持ちにする魔法の力があることを体験的に理解させる。

⑤ 縦割り班活動による異年齢交流
・1年間を通して、継続的に縦割り班活動を行い、異年齢の人との関わり方を身に付ける。
・活動を通して、お互いを思いやる気持ちや責任感、有用感などをもたせる。
・全校の児童を全校の職員で育てるという理念を実践する場とする。

⑥ わくわく学級との交流
・副籍学級を決め、実態に応じて交流・共同学習を積極的に行う。
・日常の学校生活や交流活動など通して、色々な個性のある児童が、お互いを理解し合い、受け入れ合い、ともに歩む態度を育成する。
・各学年の交流活動の年間計画に基づき、これまでの実践を活かしながらよりよい交流活動が行われるよう工夫していく。

⑦ みんなで歌声を響かせる。
・音楽朝会だけでなく、学級でも歌を歌う時間を取り入れる。
・みんなで歌うことの心地よさ、楽しさを味わわせたい。

⑧ 道徳教育の要となる道徳の時間を充実させる。
・週1時間（年間35時間）の道徳の時間を確保する。
・年間指導計画の基づいた指導を行う。
・特別の教科道徳の趣旨を理解し、道徳の授業改善を図る。
→道徳の時間とは、
「ねらいに照らして、子供一人一人が、自分の生き方の中の課題について深く考えたり感じたりする時間」
・指導感を明確にした授業の構想
（価値観）ねらいとする道徳的価値の捉え
（児童感）児童の実態、学級の実態、一人一人の子供への願い

（教材感）教材分析（教材選択、教材分析、教材提示）
・「考える道徳」「議論する道徳」への転換。
・「問題解決的な学習」「体験的な学習」を適切に取り入れる。

⑨ オリ・パラ教育の充実
・各教科・領域等の実践の中で、オリ・パラ教育で育成すべき五つの資質（①ボランティアマインド ②障害者理解 ③スポーツ志向 ④日本人としての自覚と誇り ⑤豊かな核再感覚）の育成を図る。
・4年生以上は、「I'mPOSSIBLE」（パラリンピック教育教材）を用いた授業を1回以上行う。（低学年も可能ならば行う。）
・「世界ともだちプロジェクト」の本校の対象国である、①アメリカ合衆国 ②キプロス共和国 ③エジプト・アラブ共和国 ④ホンコン・チャイナ ⑤ニュージーランドについて、各教科・領域、行事等で触れることができることがあれば取り上げる。6年生の総合的な学習の時間「世界のみんなと手をつなごう」では、必ず対象5か国は扱うこととする。

（3）体も心も鍛え、生き生きとした元気あふれる学校

① 児童の基礎体力、運動能力の向上
・校内研究を通して、体育の授業改善を図る。
・体育の授業における運動量の確保や運動の質の向上を図る。（運動従事時間を概ね25分確保する。）
・体作りの運動を年間約15時間設定し、指導の充実を図る。
・小学校体育（運動領域）まるわかりハンドブックなど活用して、ねらいを明確にし、運動量の確保、目標設定、活動や場の工夫など授業改善を図る。
・新体力テストを活用して実態を把握し、指導の改善に活かす。
→体育部で結果の分析、課題の把握を行い、具体的な取り組みを提案する。
・外遊びを励行する。
→時には、教師も一緒に遊びに参加し、児童の様子を把握したり、新しい遊びを紹介したりするとよい。（3色鬼、ゴムだん、縄跳び、竹馬、Sケン、ドロケイ・・・）

② 食育の推進
・食育年間指導計画に基づいた指導を行う。
・好き嫌い無くよく食べるクラスを目指す。→野菜や魚などみんなで少しずつ多く食べるよう要求していく。
・個に応じて食べる量を調節しながら、少しずつ食べられる量を増やしていく。
・給食主任、栄養士、給食室、保護者等と連携を図り、食に関する指導の情報を提供し、日常の指導にいかす。

③ 縄跳びや持久走の取り組み
・体育の授業や休み時間などで継続的に取り組む。→カードを活用して努力の後が見えるようにする。
・縄跳びの取り組みでは、運動委員会を活用して、主に低学年に跳び方を教えたり検定をしたりする。

④ 歯切れのよい返事、みんなに聞こえる明瞭な発言の指導を徹底する。
・返事は、元気のよいことも大事だが、まずは歯切れの良さ（「ハ」と「イ」とくっつける）を要求したい。声が小さくても歯切れのよい返事ができたらほめる。

・授業中の発言は、先生に言ってるのではなく、クラスのみんなに言っている意識をもたせる。一番遠くにいる人にも聞こえるように発言することを継続的に指導する。

⑤ キャリア・パスポートの活用

・一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育（キャリア教育）を推進するために、キャリア・パスポートを活用した実践を行う。

・キャリア教育を通して、変化の激しい社会をたくましく生きていくために必要な4つの力（①人間関係形成・社会形成能力 ②自己理解・自己管理能力 ③課題対応能力 ④キャリアプランニング能力）の育成を図る。

（4）家庭及び地域社会に信頼される開かれた学校

① HP による情報発信

・計画的、積極的に情報発信していく。

② 学級だよりの作成

・簡単なものでよい。学級の様子を伝える。

・学級だよりを書くことで、クラスの様子や自分の指導を振り返る機会になる。

・保護者が一番知りたいのは、自分の子供の学級の様子。楽しいエピソードなども入れて伝えてほしい。

③ 家庭・地域に信頼される教職員

・電話の応対でその学校が判断される。→「石神井西小学校、職員室、〇〇でございます。」、伝言は確実に。（電話近くにあるメモを利用）

・報告を大切にする。→依頼されたことの実行、児童の様子 「職務の完了は、報告をもって完了とする。」

・来客への対応→やりかけの仕事を一端やめ、立って応対する。

・体罰、個人情報の管理、会計事故、セクハラ、飲酒・・→勤務時間外も公務員として立場は変わらない。

・地域の行事にボランティアとして参加、協力する。

→保護者や地域の人もボランティアで子供たちのために働いている。参加できる日、参加できる時間帯だけでもよいので、可能な範囲で参加して欲しい。

④ 安全・整頓された学校

・安全教育の充実。

・危険なところ、壊れているところ、汚れているところを無くしていく。

・1日の終わりの教室や廊下を整理整頓して、凛とした形を作って翌朝子供を迎える。

→机・いすの整頓、ロッカーの上の整理、廊下のフックの物、黒板、ラーフル（黒板消し）、チョーク、ゴミ箱を毎日からにする。

・トイレ、流し、傘立て、靴箱、昇降口などみんなが使うところをきれいに使う指導を徹底する。

・出張等で先生がいないときの補教、最終補教者及び学年で最終確認を。

・掲示物をきちんと貼る→表題やねらいなどを掲示する。 掲示物をきれいに外す。

・節電の意識を高くもつ。

・図工の作品を校内に飾り、温かい雰囲気を作る。

・いじめ、問題行動など見つけたら、みんなで声をかけてとめていく。→情報の共有